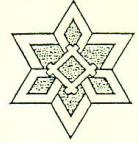


ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和4年5月31日発行

(本年度3号)



校訓 共同 進取

真実を求め 身を鍛え 共に勉る 福井校

歴史に触れる旅...

肌寒い日が続いた5月でしたが、終盤は真夏のような暑さを感じられる日もあり、まさに立夏の時季です。

子ども達は元気いっぱい、晴れの日には外遊びが盛んで活発に学校生活を送っています。7日間連休のGWでしたが、学校が始まるとすぐに学習モードになり勉強や運動に励む姿が見られます。コロナ禍も多少落ち着いているようにも感じますが、まだまだ安心できない状況です。計画通りに学習を進めるためにも、「新たな生活様式」を実践し、感染対策を充実させたいです。



さて、5月12日～13日は6年生が楽しみにしていた修学旅行でした。過去2年間は日帰りの旅行となってしまいましたが、今年は一泊二日の日程で実施することができました。吉原小学校の6年生と一緒に奈良県・兵庫県をめぐり日本の歴史的建造物を見学したり、リゾナー施設で楽しんだり、雨模様でしたが2日間たっぷり活動することができました。見学場所ではグループで行動することも多々ありましたが、自分達で考えて行動することができました。元気のいい挨拶や班のメンバーを気遣う姿、お互いに声を掛け合って友達を大切に行動する力など、6年生の良さを様々な場面で見ることができました。また吉原小学校の友達とは、コロナ禍の影響で顔を合えずチャンスが少なかったのですが、今年、事前準備の段階からオンライン授業などで交流をしてきました。修学旅行の終わりには一つの学級であるかのように仲良くなり、いっしょに笑い合える姿が印象的でした。今後も一層交流を深めるとともに、今回の「旅」で学んだことや経験したことを両校の最高学年として、今後の学校生活に生かしてほしいです。

今回の「旅」ではたくさんの「世界遺産」を見学しました。世界遺産は1972年に採択された「UNESCO世界遺産条約（通称）」によって、地球の自然や歴史的建造物など、将来的に守り続けていくべき「人類共通の宝物」として認め登録しているものです。世界遺産には大きく「文化遺産」と「自然遺産」と「複合遺産」の3区分があり世界各地に存在します。世界的に高い価値があるものを「世界遺産候補」として挙げ、ユネスコに「推薦」します。そして様々な側面から審査され「登録」となります。

現在1154件の世界遺産があります。登録第1号はガラパゴス諸島など12か所。日本の第1号は1993年に法隆寺、姫路城、屋久島、白神山地の4か所です。その後、様々な所が登録され、現在日本には25件（文化20＋自然5）の世界遺産があります。今回の修学旅行では1998年に「古都奈良の文化財」として8箇所（8つで件）が登録された中から春日大社、薬師寺、東大寺、平城宮跡を見学しました。2日目に見学した姫路城も第1号の世界遺産なので、今回の修学旅行はほぼ「世界遺産巡りの旅」だったのです。貴重な遺産ですが、世界遺産に登録されたからと言って、遺産そのものの維持管理費等がユネスコから補助されるといわけではなく、やはり個人や地元、都道府県が守っていかなければなりません。数多くの世界遺産を有する奈良県ですが、その維持はとて大変な事なのです。日本では世界遺産に登録される前に国の文化財保護法や自然公園法などの適用がされ、遺産の修復や災害時の復旧費用に国等から補助が受けられた税金等が考慮された仕組みになっています。また、世界遺産に登録されると、その地の知名度が高くなり観光資源として多くの観光客を呼び込むことにもつながるので、遺産の維持費獲得も期待できます。しかし、あまりに観光地化が進むと環境の悪化や遺産そのものの破壊にもつながりかねません。「人類の宝物」とはいえ、将来に向けて維持していくことするのもなかなか難しいことなのです。

「百聞は一見に如かず」といいますが、実物を見て実感することはとてもよい学習になります。しかし、それだけでは生きて働くにはなりません。1300年余りの歴史の歩みやそれが現存する姿、古来の世界観などについて自分なりに「考えること」が重要です。子ども一人一人が、何を感じ、何を理解し、どう生きていくのか...。歴史的遺産を前に、その問いかけが大切だと思います。

校長 波多野 暢 教職員一同